

CT/MRI検査の造影剤使用の禁忌・慎重投与

	CT	MRI
A. 禁忌となる患者		
(1) ヨードまたはヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者	◎	
(2) 重篤な甲状腺疾患のある患者	○	
(3) ガドリニウム(Gd)造影剤に過敏症の既往歴のある患者		◎
(4) 併用禁忌: ビグアナイド系経口血糖降下剤(メルビンなど)	◎	
B. 原則禁忌となる患者		
(1) 一般状態の極度に悪い患者	○	○
(2) 気管支喘息のある患者	○	◎
(3) 重篤な腎障害(無尿など)のある患者	○	◎
(4) 重篤な肝障害のある患者		○
(5) 褐色細胞腫のある患者、疑いのある患者	○	○
(6) その他		
①重篤な心障害のある患者	○	○
②重篤な肝障害のある患者	○	○
③急性膵炎の患者	○	○
④マクログロブリン血症の患者	○	○
⑤多発性骨髄腫のある患者	○	○
⑥テタニーのある患者	○	○
C. 慎重投与となる患者		
(1) 本人または両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹などのアレルギーを起こしやすい体質を有する患者	○	○
(2) 薬物過敏症の既往歴のある患者	○	○
(3) 脱水症状のある患者	○	○
(4) 高血圧症の患者	○	○
(5) 動脈硬化のある患者	○	○
(6) 糖尿病の患者	○	○
(7) 甲状腺疾患のある患者	○	○
(8) 肝機能が低下している患者	○	○
(9) 腎機能が低下している患者	○	○
(10) 既往歴を含めて、痙攣、てんかんおよびその素質のある患者		○
(11) その他: 高齢者、小児、妊産婦	○	○

* 当センターでは、eGFRを血清クレアチニン値から換算、30ml/min-1.73m²未満を絶対禁忌、30~60ml/min-1.73m²を相対禁忌としております。

連携医からの造影MRI検査の依頼は、GFR≥60ml/min-1.73m²でお願いします。

また高度な腎障害患者(eGFR<30ml/min-1.73m²)、肝移植患者は禁忌です。

eGFR30未満の患者、また透析中の患者にはガドリニウム(Gd)造影剤による腎性全身性線維症(NSF)の発症のリスクがあります。

NSFについては直後の透析も有用とはいえ、中等度~末期の腎疾患患者は造影禁忌とさせていただきます。(eGFR値は、血清クレアチニン値からの換算表を参照してください。)

* メドトロニック社製ペースメーカー(InSync8040およびセラシリーズ)使用中の患者は当該部位のCT検査は、施行できません。

*造影剤副作用の死亡例のうち、気管支喘息は基礎疾患として高率で、絶対禁忌としてご配慮いただければ幸甚です。

*ビグアナイド系経口血糖降下剤はヨード造影剤との併用注意となっております。

やむを得ず使用する場合は、検査前後の48時間の休薬が必須です。

MRI検査の禁忌

大変強い磁場の中で検査を行うため、装着金属によっては検査が禁忌になります。

<p>(1) 禁忌例</p> <ul style="list-style-type: none"> ①心臓ペースメーカー ②金属製の心臓人工弁 ③人工内耳(移植蝸牛刺激装置)、人工耳小骨、人工骨頭 ④神経刺激装置(深部脳刺激装置、TENS装置) ⑤除細動装置 ⑥骨成長刺激装置 ⑦注入ポンプ ⑧磁力により装着する義眼や磁力部分が着脱不能な義歯 ⑨磁力により装着する尿道カテーテル ⑩冠動脈等にステントなどを挿入し2か月未満の方 ⑪内視鏡検査で止血クリップを使用し脱落が確認できない方 	
<p>(2) 検査を受けることができない事がある場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①手術(カテーテル含)によるクリップやステント、コイル等 ②その他の体内金属:外傷による鉄粉(弾丸や鉄片等) ③閉所恐怖症の方 ④アートメイク・タトゥー・眉墨・入れ墨のある方 等 	
<p>(3) その他、検査時に取り外していただくもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ①補聴器・腕時計・めがね・磁気カード・携帯電話・電子機器 ②装飾品・入れ歯・使い捨てカイロ・エレキバン・ベルト 等 ③湿布薬・ニトロダーム・ニコチンパッチなどの貼付材 ④ビジダーム・アルジサイト銀などの創傷保護剤 ⑤ブラジャー・ヒートテック様素材などの下着類 等 	